

令和3年度
第61回定例総会 議案書

令和3年4月19日（月）13：30～

ZOOM オンライン



HOKURIKU Branch of The Japanese Geotechnical Society
公益社団法人 地盤工学会 北陸支部

目 次

1. 令和2年度の事業報告	3
1) 評議員会・総会	
2) シンポジウム・講習会の開催	
2. 常設委員会活動報告	6
1) 表彰委員会	
2) 軟弱地盤対策委員会	
3) 若手理論・計算力学委員会	
4) 出版事業推進委員会	
5) 全国第57回地盤工学研究発表会開催準備委員会報告	
3. 防災協定締結について	13
1) 概要	
2) 北陸支部連絡体制	
4. 令和2年度決算報告	15
1) 決算報告	
貸借対照表	
正味財産増減計算書	
財産目録	
2) 会計監査報告	
4. オンライン形式によるイベント開催の課題	19
5. 本部・支部表彰	21
1) 永年会員への感謝状の授与	
2) 支部表彰の授与	
6. 令和3年度の事業計画	22
7. 支部委員会について	23
8. 令和3年度予算	25
9. その他	26

1. 令和2年度の事業報告

はじめに

今年度の事業活動はコロナ禍の中で、従来とは大きく変貌した。すなわち昨年度末に学会本部から「新型コロナウイルス感染症への対応」の要望文章が届き、今年度冒頭の支部総会が従来の会員の対面形式からメール審議形式に変更され、その後オンラインのイベントツール（ZOOM）が本部から供給されて以降は基本的にZOOMを使ったイベント開催となった。本年度のイベント開催数は不慣れなこともあり例年に比べ激減した。またオンライン形式のイベント開催にはいくつかの課題が浮き彫りになっている。

1. 公益出版事業〔公1〕

出版事業を推進するための委員会を立ち上げ、北陸支部創立60周年記念事業誌の出版をおこなった。全国電子地盤図の展開、「液化化しやすさマップ新潟県版、富山県版、石川県版」と流水客土技術関連資料集DVDの拡販を引き続き行った。

2. 調査・研究事業〔公2〕

コロナ禍の中で、見学会などの対面形式のイベントは中止した。コロキアム、実務者報告会はZOOMを使ってのオンライン形式で実施した。また学生の成長や若手技術者の育成を目的とした「若手理論・計算力学普及委員会」と「北陸地域における軟弱地盤対策工法の設計と維持管理に関する調査研究委員会」の活動は行った。来年、北陸支部で開催される地盤工学研究発表会の準備委員会を立ちあげた。

3. 技術推進事業〔公3〕

国土交通省北陸地方整備局と新潟県・石川県との災害協定を締結した。富山県との災害協定に基づき県内自治体職員に対する研修会を開催した。建設コンサルタンツ協会など関連学会協との連携を強化し、支部活動の活性化と新規会員の獲得を目指した。

4. 表彰関連事業〔公4〕

支部賞として、論文部門研究功績賞、論文部門研究奨励賞、技術部門技術賞、企画部門企画賞、功績部門功績賞の募集を行い、論文部門、技術部門の3件の優れた活動・業績の表彰を推薦した。

1) 評議員会、総会

(1) 第 60 回定例総会

日 時：令和 2 年 4 月 20 日(月)

形 式：会員からの委任状をいただき、支部三役（支部長、副支部長、幹事長、副幹事長、会計監査）のメール審議

支部三役：10 名 委任状 81 名

(2) 商議員会

日 時：令和 3 年 2 月 19 日(金)16 :30～17:30

形 式：富山 NIX ビルでの対面と ZOOM オンライン併用のハイブリッド形式

商議員参加者：21 名 委任状 7 名 計 28 名

(3) 新潟地区幹事会

日 時：令和 2 年 4 月 2 日(木)13 :30～

形 式：メール審議

参加者：8 名

(4) 石川地区幹事会

日 時：令和 2 年 6 月 12 日(金)18:00～

形 式：ZOOM によるオンライン会議

参加者：17 名

(5) 富山地区幹事会

日 時：令和 2 年 6 月 18 日(木)15:00～

形 式：ZOOM によるオンライン会議

参加者：18 名

2) シンポジウム・講習会の開催

(1) 第 82 回土質工学最新情報コロキウム

日 時：令和 2 年 10 月 23 日(金)13:30～17:00

形 式：ZOOM を使ったオンライン

題目：「令和元年台風 19 号による千曲川の被災と堤防の強化」

講師：大塚 悟 先生 長岡技術科学大学環境社会基盤工学専攻 教授

題目：「小松平野における完新世の地形発達の検討ー北陸新幹線調査ボーリング資料の
活用の試みー」

講師：小岩 直人 先生 弘前大学 教育学部 教授

参加人数 92 名

(2) 「支部創立 60 周年記念：現場技術者のための土質力学：第 7 回」

日 時：令和 2 年 11 月 13 日（金） 13:00～15:30

形 式：ZOOM によるオンライン

題 目：「人工知能（AI）と地盤分野への応用研究事例」

講 師：荒木 光一 氏 五大開発株式会社

題 目：「地盤技術者の暗黙知の深層学習」

講 師：古木 宏和 氏 日本工営株式会社

参加者 66 名

(3) 地盤工学会と富山県との災害協定に基づく研修会

日 時：令和 2 年 11 月 20 日（金） 13:20～16:45

形 式：富山 NIX ビルでの対面と ZOOM オンライン併用のハイブリッド形式

題目：「日本海海底断層と津波」

講師：佐藤 比呂志 先生 東京大学地震研究所 地震予知研究センター 教授

題目：「令和元年 千曲川水害地盤工学会調査団報告その 1」

講師：大塚 悟 先生 長岡技術科学大学環境社会基盤工学専攻 教授

題目：「令和元年 千曲川水害地盤工学会調査団報告その 2」

講師：佐藤 豊 氏 会キタック株式会社

参加人数 県関係 29 名学会関係 33 名合計 62 名

(4) 「第 26 回地盤工学に関わる実務者報告会」

日 時：令和 3 年 2 月 5 日（金） 13:30～15:35

形 式：ZOOM によるオンライン

題目：海成粘土地盤における盛土の長期沈下事例

講師：高橋 浩之 氏 株式会社興和 調査部

題目：盛土周辺地盤の沈下が問題となった事例 ～消雪用地下水揚水が関与～

講師：門脇 竹久 氏 株式会社村尾技研 環境技術部

題目：深層混合処理工法・低改良率杭の実用化

講師：金子 敏哉 氏 株式会社キタック 販促管理部門

題目：さらなる低改良率杭の進化と課題

講師：山田 惣一郎 氏 株式会社キタック 技術部第一部地盤グループ

題目：沈下予測・対策の温故知新～昭和 50 年の北陸自動車道における不同沈下事例

講師：竹嶋 正勝 氏 NPO法人国境なき技師団 (元NEXCO)

参加人数 75 名

(5) 第 83 回土質工学最新情報コロキウム

日時：令和 3 年 2 月 19 日 (水) 13 時 10 分～16 時 20 分

形式：富山 NIX ビルでの対面と ZOOM オンライン併用のハイブリッド形式

題目：「大規模盛土造成地の被害と 地盤リスクに関する最近の知見」

講師：佐藤 真吾 氏 株式会社復建技術コンサルタント

題目：「大規模盛土造成地変動予測調査における基礎知識と事前対策・復旧対策について」

講師：門田 浩一 氏 パシフィックコンサルタンツ株式会社

参加者 県関係 9 名 学会関係 47 名

2. 常設委員会活動報告

(1) 表彰委員会

メールによる意見交換はあったものの、令和 2 年度の表彰委員会は、令和 3 年 2 月 10 日 (水) 16:00～17:30 に、zoom にて初開催となった。議事次第、出席者は別途委員会議事録に記されている。まず、表彰委員会の運営方針の確認として、学会員の減少、推薦自体の減少の現状も鑑み、支部表彰が活性化の一助となるよう、より推薦しやすくなる工夫として、以下の改善策が提案された。

「表彰候補、特に民間企業の業務においては、発注者等の許可が必要であるが、従来すべての書類が整ってから審議をしていたが、推薦段階で審査し、受賞候補濃厚となった場合に手続きを完了し、改めて最終決定とする。必要な了承が得られなかった場合は、受賞辞退と扱うものとする。」また、民間の研究・論文部門、技術部門が少ない傾向があることが確認され、民間企業の受賞を後押しするため、内容の基準は下げないが、公益社団法人として求められていることでもあり、業績要件は、地盤工学会関連の投稿や発表に強くは拘らずに（内規では「主に、Soils and Foundations, 地盤工学ジャーナル, 地盤工学会誌（土と基礎）を対象」とある。）受賞候補とす

る事が確認された。また、各規定と推薦書の不整合を修正し、推薦候補を早い段階から広く募ることが確認された。

研究・論文部門 2 件、技術部門 2 件の応募があり、下記の通り、論文賞 2 件、技術奨励賞 1 件の候補が決定された。各賞の候補は以下の通り。

(i) 論文賞

①候補者：村尾英彦氏

対象論文：

Progressive failure of unsaturated fill slope caused by cumulative damage under seepage surface, International Journal of GEOMATE, Feb., 2021, Vol.20, Issue 78, pp. 1-8, ISSN: 2186-2982 (P), 2186-2990 (O), Japan

審査結果：

論文では地震時の斜面の崩壊機構を振動台模型試験により検討している。参考論文では飽和地盤を対象とするのに対して、候補論文では不飽和地盤を対象としており、地下水位の差異による斜面応答特性及び斜面の破壊の進行機構を明らかにした。特に、表層で被害のない場合にも斜面内部にはせん断領域が形成されており、地震では本震だけではなく、余震を含めた震動で斜面が崩壊する可能性のあることを警鐘している。研究対象は模型試験であるが、地震被害で多数崩壊事例が報告されている人工盛土斜面への適用性は高く、地下水位の影響も含めて地震安定性に関する研究は喫緊の課題に対する検討といえる。

本論文は名古屋大学での博士号取得に関連する一連の研究で、地盤工学における世界四大論文集の1つである Canadian Geotechnical Journal に採択された論文もあり、業績も十分と判断し、民間技術者としての業務をこなしながらの成果は、支部の技術者を勇気付けるものであると評価され、研究・論文部門論文賞候補とし、推薦することと決定した。

②候補者：佐藤豊氏

対象論文：

千曲川旧河道の形成過程と土砂の堆積構造、基盤漏水位置との関係、土木学会論文集 B1(水工学), Vol. 76, No. 2, I_295-I_300, 2020

審査結果：

候補論文は千曲川の基盤漏水問題に対して、旧河道の形成過程と土砂の堆積構造の視点から漏水位置との関連を調査し、その成果を取りまとめたものである。候補者は本論文以外でも、基盤漏水に対して地形・地質と堤防で現れた様々な異常現象や被害に対して、地盤調査技術に基づいて綿密な調査や考察を長年に亘って実施しており、調査研究の成果の一部を候補論文に発表している。河川堤防の基盤漏水は堤防の安定性を低下させる現象として近年に高い注目を集めており、佐藤氏の研究成果は同分野の実務や研究調査に貴重な知見や資料を与えるものである。千曲川では2年前に台風19号により河川堤防の決壊が生じるなど甚大な災害が

発災したが、佐藤豊氏は地盤工学会の災害調査団の中心人物として被害調査や分析で大きな活躍をされ、調査団の報告会では穂保地点の調査結果についてシンポジウム等で報告を実施するほか、地盤工学会の英文誌である Soils and Foundations への千曲川被害に関する報文の共著者として活躍されていることから、業績自体も内規を十分に満たしていると判断された。

村尾氏同様に、昨年に中央大学より博士の学位を授与されており、業務繁多の中で現地調査を実施し、成果を取りまとめられたことは支部の研究活動の活性化につながると評価され、研究・論文部門論文賞候補とし、推薦することを決定した。

(ii) 技術奨励賞

①候補者： 山口貴之 氏

対象技術：IoT 技術の導入による点検作業の効率化

審査結果：

県内で管理している地すべり対策工の長寿命化計画の立案を目的として実施された点検業務においては、既往資料に記載されている図面や写真が古く現地形に合わない箇所があることや、施工台帳に記載が無い施設も区域内に多く認められるという課題があった。このため、台帳等を参考にした現地調査では、精度良く対策工の位置を把握できないため、事前に GIS を利用して既往資料と国土地理院地図を合成し、施設位置を座標化することで、現地調査時にハンディ GPS で位置確認を容易にする調査方法を検討した。

現地で新たに発見された対策工についても、ハンディ GPS で施設位置を登録することで、一括して調査位置の把握が可能となり、ハンディ GPS の移動軌跡と、デジカメで撮影した施設写真を時系列で紐付けすることで、撮影位置の可視化を自動で行える。今まで紙ベースの調査票では地形変化などに対応できなかった状況を解決し、今後の維持管理段階における調査精度の向上を成し得る技術であると判断される。

これらの技術は、山口氏個人が行ったものであり、既存のフリーソフトを用いて、業務に利用できるまでに最適したものであり、タイトルの「IoT (Internet of Thing)」は誤用ではないかという意見も出されたが、若手技術者の新技術の取り組みとして大いに評価できるとの結論となり、技術奨励賞候補とし、推薦することが決定された。

受賞候補推薦リスト

論文賞

対象者または企業・団体	対象論文・業績
村尾英彦	浸透力を繰り返し受けた不飽和斜面の進行性破壊
佐藤豊	千曲川旧河道の形成過程と土砂の堆積構造、基盤漏水位置との関係

技術奨励賞(推薦は技術開発賞であったが表彰委員会に変更)

対象者または企業・団体	対象論文・業績
東京コンサルタンツ株式会社	IoT技術の導入による点検作業の効率化

(2) 軟弱地盤対策委員会活動報告

(1) 第4回軟弱地盤対策委員会

①日時：2020年9月30日(水) 13:00～15:30

②場所：キタックビル 8階 会議室

③出席者：金子、齋藤、竹嶋、安田、門脇、小川、高橋、山田、鶴巻、田口、村山、木村 (委員会メンバー16名中12名参加)

④委員会の活動内容

・各社、軟弱地盤対策工の事例の中から、代表的な3事例程を詳細にまとめ、それを発表し意見交換を行った。

・前回の委員会で各社から提出してもらった軟弱地盤対策工の事例概要一覧表のまとめ方について議論した。

・次回の委員会までに、各委員がまとめてくる内容を整理し、担当者を決めた。

(2) 第5回軟弱地盤対策委員会

①日時：2020年12月22日(火) 13:30～17:00

②場所：キタックビル 8階 会議室

③出席者：金子、大塚、齋藤、竹嶋、門脇、高橋、山田、鶴巻、田口、村山、小林 (委員会メンバー16名中11名参加)

④委員会の活動内容

・前回、各委員から事例発表してもらった中で、地盤工学的な問題の発生した事例について、その原因や今後の教訓について報告してもらい意見交換を行った。

・現在、一般的に施工されている軟弱地盤対策工について、その概要を一覧表にまとめた。この一覧表に追加する工法や削除する工法について議論した。

・各委員から提出してもらった軟弱地盤対策工の事例や概要一覧表、位置図の作成方法など、最終的なまとめ方について議論した。

・軟弱地盤対策委員会でまとめた事例を「第26回実務者報告会」で報告してもらうため、その内容や人選について議論した。

(3) 若手理論・計算力学普及委員会

① 委員会期間について

当初予定はR2年度で委員会を終える予定であった。しかし、本年度はCOVID-19が蔓延し、思うように活動ができないことを考え、委員会期間の一年延期を委員に図った。結果として委員会期間をR3年度までとすることで合意した。

②委員会実施報告

1. 2020年5月18日 若手理論・計算力学普及委員会 委員長・副委員長会合
 - ・ コロナ禍であり、委員会ミーティングのために、Microsoft 社 Teams のチームを作成し、遠隔での打ち合わせを行うことに合意
2. 2020年9月25日 第五回 若手理論・計算力学普及委員会 遠隔実施
 - ・ 委員会は 2021 年度 も 継続する。当初予定 は 2020 年度 で 終了)
 - ・ 最終報告は計算工学関連でまとめる。一次元 FEM 資料を基に最終報告をまとめる。一次元 FEM についての資料を整備することで、初学者への数値解析 の普及に寄与できるものと考ええる。(2020/6/16 メール審議より)

③委員会主催行事について

- ・ 北陸支部支部創立 60 周年記念石川県地区実施の遠隔講習会「現場技術者のための土質力学：第7回」の主催
- ・ これから先の未来に使える地盤工学を題材に、地盤工学関連分野への AI 利用に関する講習会を主催
 - ・ 人工知能 (AI) と地盤分野への応用研究事例
 - ・ 講師 荒木 光一 五大開発株式会社
 - ・ 地盤技術者の暗黙知の深層学習
 - ・ 講師 古木 宏和 日本工営株式会社

④委員について

卒業・退職に伴い 2名減

新規オブザーバー4名 (内3名石川高専学生)・委員1名 追加
次年度予定

委員会、講習会を実施予定とする。

ノウハウ集などの印刷物を制作する。

以上

(4) 出版事業推進委員会報告

(1) 設立趣旨

地盤工学会北陸支部創立 60 周年記念誌の発刊を目的とする。

(2) 委員会組織

委員長 斎藤 浩之

幹事 大賀 政秀

委員 新潟県：大塚 悟、金子 俊哉

富山県：杉本 利英、兵動 太一

石川県：齊藤 茂

(3) 活動内容

令和2年度の出版事業推進委員会は、コロナ禍の状況であり、全てメールにて活動を行った。

① 和2年5月19日

北陸支部60周年記念誌の目次案、スケジュールについて各委員にメール配信し、意見交換を行った。

目次案： ・支部長挨拶

- ・第1章 歴代支部長からの寄稿文
- ・第2章 支部創立50周年から60周年の活動記録
- ・第3章 北陸地方における10年間の大規模工事事例～地盤工学の課題と対策～

スケジュール：

- ・執筆依頼：令和2年4月～6月
- ・執筆：令和2年7月～10月
- ・製本：令和2年11月～12月
- ・配布：令和3年4月の総会で配布

役割分担：執筆候補者に対し、執筆の応諾確認を各委員が行う。

②令和2年9月25日

北陸支部60周年記念誌への寄稿文のタイトルを記載した目次案の作成と執筆者からの原稿受領状況の中間報告を行った。

② 和2年12月8日

北陸支部60周年記念誌の執筆者17名中13名の方から原稿を受領し、各委員に報告した。まだ、原稿を入稿して頂いてない執筆者には、担当委員から再度お願いすることとした。

④令和2年12月16日

北陸支部60周年記念誌の発刊方法について意見交換を行った。

⑤令和2年12月23日

北陸支部60周年記念誌の発刊方法によっては、当初の委員会予算を大きく上回ることから、北陸支部三役の方にメール審議を行って頂き、発刊方法の方向性を決めて頂いた。

- ・冊子製本部数は50部程度とする（本部・支部用、執筆者、委員、予備）。
- ・会員には北陸支部のサーバーから無償でダウンロードできるようにする。

⑥令和3年1月5日～令和3年1月25日

北陸支部60周年記念誌の原稿がすべて入稿し、第1回目の校正が終了したものを各委員に

1月末までに確認してもらった。

⑦令和3年2月1日～令和3年3月26日

各委員からの指摘事項等の修正を行い、印刷製本用原稿とHP掲載用原稿を作成。

冊子は50部を印刷製本した。また、会員向けには北陸支部HPからダウンロードできるように事務局に依頼した。

(4) 記念誌概要

- ・ 支部長挨拶
- ・ 第1章 大谷前会長および過去10年間の歴代支部長からの寄稿文
- ・ 第2章 支部創立50周年から60周年の活動記録
- ・ 第3章 北陸地方における10年間の大規模工事事例～地盤工学の課題と対策～

(5) 冊子の配布先

①執筆者

②地盤工学会本部、各支部

③北陸支部 三役役員

④関連団体

- ・ 建設コンサルタンツ協会北陸支部
- ・ 地質調査業協会北陸支部
- ・ 斜面防災対策技術協会
- ・ 地すべり学会北陸支部
- ・ 防災協定締結先（国土交通省北陸地方整備局、石川県、富山県、新潟県）
- ・ 各県、建設業協会

5) 第57回地盤工学研究発表会開催準備委員会報告

1) 準備委員会メンバー人選会議

日時:2020年8月17日(月) 16:00～17:00

場所・方法:リモート会議(Zoom)

出席者:大塚、金子、齋藤(浩)、中野

審議内容

準備委員会および実行委員会メンバーの人選を行い、協力依頼挨拶スケジュールを検討する。
(会議出席者により、8月下旬～12月下旬にかけて人選した各位への協力依頼挨拶を展開)

2) 令和2年度第2回調査・研究部会出席

日時:2020年9月16日(水) 15:00~17:00

場所・方法:リモート会議(Zoom)

出席者:中野

審議内容

2022年全国大会に関して以下の提案を行う。

開催地:新潟市

開催会期:2022年7月20日(水)~22日(金)

会場:朱鷺メッセ(新潟コンベンションセンター)

※11月の第3回調査・研究部会で開催地を新潟市とし、開催形式を現地開催とする方針が示唆される。

3) 準備委員会委嘱状の発行

日時:2021年1月29日(金)

委嘱状発行により、正式な協力依頼と準備委員会の立ち上げを行う。

4) 第1回準備委員会

日時:2021年2月8日(月)

場所・方法:メール審議(審議中。意見は2/20まで)

出席者:準備委員会メンバー(計33名)

審議内容

事務局から資料を配信し、準備委員会組織と各部会の役割、今後の作業行程計画、予想される大会規模等に関する確認・審議を行う。

3. 防災協定締結について

下記のように災害協定を締結した。

(1) 概要

協定者 国土交通省北陸地方整備局長

協定名 大規模災害発生時における相互協力に関する協定

締結日時 令和3年2月15日

担当部局 国土交通省北陸地方整備局 防災室

協定者 新潟県知事

協定名 災害時における調査の相互協力に関する協定

締結日時 令和3年1月8日

担当部局 新潟県砂防課

協定者 石川県知事

協定名 大規模災害発生時における調査の協力に関する協定

締結日時 令和3年4月1日

担当部局 石川県土木部監理課

(2) 北陸支部連絡体制（連絡優先順）

事務局

事務局長 西本俊晴

幹事長 竜田尚希

支部長 穴田文浩

新潟県

大塚 悟 長岡技術科学大学(長岡技術科学大学)

豊田 浩史 (長岡技術科学大学)

保坂 吉則 (新潟大学)

富山県

古谷 元 (富山県立大学)

原 隆史 (富山大学)

兵動 太一 (富山県立大学)

石川県

小林 俊一 (金沢大学)

高原 利幸 (金沢工業大学)

新保 泰輝 (石川工業高等専門学校)

4. 令和2年度決算報告

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで	令和2年度予算	令和2年度決算
(1) 経常収益		
① 事業収益	770,000	166,000
公益出版事業収益(公1)	(20,000)	0
印刷物配布収益	20,000	0
調査研究・基準事業収益(公2)	(500,000)	(55,000)
講演会等収益	250,000	55,000
見学会等収益	100,000	0
研究会等収益	150,000	0
技術推進事業収益(公3)	(250,000)	(111,000)
報告会収益	100,000	0
講習会収益	150,000	111,000
② 雑収益	250,000	3
受取利息	1	3
雑収入	249,999	
③ 他会計からの繰入額	2,670,000	2,510,000
本部交付金	2,670,000	2,510,000
経常収益計	3,690,000	2,676,003
(2) 経常費用		
① 事業費	2,050,000	296,805
調査研究・基準事業費(公2)	(1,350,000)	(158,437)
講演会費	400,000	17,050
見学会費	150,000	0
研究会費	800,000	141,387
ジオテクフォーラム・セミナー	500,000	0
雪割り草の会	50,000	0
若手理論・計算力学普及委員会	50,000	0
出版事業推進委員会	100,000	
軟弱地盤対策委員会	50,000	62,110
学生会員を中心とする交流事業費	50,000	0
支部記念事業準備費		79,277
技術推進事業費(公3)	(600,000)	(129,788)
報告会費	200,000	0
講習会費	400,000	129,788
表彰委員会関連費(公4)	(100,000)	(8,580)
表彰委員会費	100,000	8,580
② 管理費	2,400,000	1,816,296
旅費交通費	250,000	65,440
通信費	300,000	332,637
リース料	0	0
消耗品費	50,000	50,544
印刷製本代費	100,000	99,660
会場使用料	20,000	
広告宣伝費	0	10,000
図書購入費	0	
支払手数料	0	14,850
雑費	500,000	63,165
事務局委託費	1,180,000	1,180,000
器具備品減価償却費	0	0
経常費用計	4,450,000	2,113,101
当期経常増減額	-760,000	562,902
一般正味財産期首残高		3,867,633
一般正味財産期末残高		4,430,535

貸借対照表

令和 3 年 3 月 31 日現在 (単位 : 円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	190,365	134,743	55,622
未収金		19,390	19,390
前払金	3,240	0	3,240
預け金	4,236,930	3,713,500	523,430
流動資産合計	4,430,535	3,867,633	562,902
資産合計	4,430,535	3,867,633	562,902
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産	4,430,535	3,867,633	562,902
正味財産合計	4,430,535	3,867,633	562,902
負債及び正味財産合計	4,430,535	3,867,633	562,902

正味財産増減計算書

令和 2 年 4 月 1 日から令和 3 年 3 月 31 日まで (単位 : 円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
事業収益	166,000	657,000	△ 491,000
調査研究・基準事業	55,000	406,000	△ 351,000
講演会等収益	55,000	208,000	△ 153,000
見学会等収益	0	74,000	△ 74,000
研究会等収益	0	124,000	△ 124,000
技術推進事業	111,000	251,000	△ 140,000
報告会収益	0	128,000	△ 128,000
講習会収益	111,000	123,000	△ 12,000
雑収益	3	434,003	△ 434,000
受取利息	3	3	
その他	0	434,000	△ 434,000
本部交付金	2,510,000	2,590,000	△ 80,000

経常収益計	2,676,003	3,681,003	△ 1,005,000
(2) 経常費用			
事業費	2,113,101	4,584,985	△ 2,471,884
会議費	0	400	△ 400
旅費交通費	120,400	193,080	△ 72,680
通信運搬費	334,842	338,814	△ 3,972
消耗品費	50,544	173,630	△ 123,086
印刷製本費	194,380	284,334	△ 89,954
賃借料	0	318,660	△ 318,660
会場使用料	27,150	363,164	△ 336,014
保険料	0	23,192	△ 23,192
諸謝金	106,000	781,100	△ 675,100
委託費	1,180,000	1,180,000	
広告宣伝費	10,000	0	10,000
支払手数料	18,480	24,880	△ 6,400
雑費	71,305	903,731	△ 832,426
経常費用計	2,113,101	4,584,985	△ 2,471,884
評価損益等調整前当期経常増減額	562,902	△ 903,982	1,466,884
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	562,902	△ 903,982	1,466,884
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	562,902	△ 903,982	1,466,884
一般正味財産期首残高	3,867,633	4,771,615	△ 903,982
一般正味財産期末残高	4,430,535	3,867,633	562,902
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	4,430,535	3,867,633	562,902

財産目録

令和 3 年 3 月 31 日現在 (単位 : 円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金 額
(流動資産)	預金	普通預金		190,365
		第四北越銀行 白山支店		190,365
	前払金		3,240	
	その他		3,240	
	預け金		4,236,930	
	本部		4,236,930	
流動資産合計				4,430,535
資産合計				4,430,535
正味財産				4,430,535

2) 会計監査報告

会計監査報告

2021 年 4 月 7 日

公益社団法人地盤工学会北陸支部殿

公益社団法人地盤工学会北陸支部

会計監査委員

林 篤 
小林 喬 

2020 年 4 月 1 日から 2021 年 3 月 31 日までの 2020 年度における会計監査及び業務の監査を行います。以下のように報告する。

- (1) 2020 年度公益社団法人地盤工学会北陸支部の収支計算、正味財産増減計算書、貸借対照表は法人の収支状況及び財産状況を正しく示していると認める。
- (2) 業務報告の内容は適正であると認める。 以上

4. オンライン方式によるイベント開催の課題

1. ZOOM ソフト使用について

ZOOM は本部が 15 本購入し、1 本が支部に提供されている。15 本のうち ZOOM ウェビナーが可能な ZOOM は 2 本となっているので、ZOOM ミーティングは支部が自由に使えるが、ZOOM ウェビナーは本部との調整の上、使用するルールとなっている。ウェビナーとミーティングの違いはミーティングは参加者が自由に発言、動画オンにできるが、ウェビナーは司会者の許可なしにはできない。なので、会議はミーティング、講演会などはウェビナーで行うことが管理者の負担が小さくなる。なので、ウェビナーを使ってイベントを企画する場合は本部と講師の事前に日程調整が必要となる。

2. イベント企画から実施の流れ

イ、最初に講師の日程、本部とウェビナーの空きぐあいを調整し案内文書を作成する。

ロ、案内文書にグーグルフォームの申し込み URL、振込先口座を記載し、配信する。参加希望者はフォームに必要事項を記入し、申し込みをする。

ハ、振込先銀行から事務局へ振込された振込人の氏名（カタカナ）がメールで配信される。

ニ、振込された参加希望者に ZOOM 参加方法を記載したメールを配信する。このメールには ZOOM からの招待状 URL、講師の資料のダウンロード先の URL、CPD 登録のための受講証明書のダウンロード先の URL が記載されている。

ホ、参加希望者は招待状 URL から ZOOM オンラインイベントに参加する。受講証明書が必要な参加者は必要事項を記載し、事務局にメール添付する。

ヘ、事務局は ZOOM オンラインイベントに参加確認れた方に受講証明書に押印し、参加者に添付返信する。

3. 課題

イ、上記のような流れで今年度のイベントを実施してきた。対面しないので、配布資料や議案書などペーパーは電子化し、ダウンロードできるようにしたのでメールや PC を使えない環境

の会員は参加する方法がない。

ロ、ウェビナーの管理は事務局に委ねられている関係から、上記作業はすべて事務局が担当しており、事務量が増えた。半面、資料の印刷などの作業はなくなった。

ハ、参加料の振込は他県から他銀行の場合、1,000 円の参加料振り込みに最大 440 円必要となる。こんな不合理的な方法を解決する方法として PAYPAY などの方法を検討したい。

二、現在、新潟県、富山県、石川県の各地区で、それぞれ独立的にイベントを開催しているがオンライン方式だと、地区別にする必要が全くない。なので、今後の北陸支部の活動そのものを見直すことになる。

5. 本部・支部表彰

1) 永年会員への感謝状の授与

特別会員

賞状

株式会社アーキジオ 4 級再表彰 (50 年)

株式会社村尾技建 4 級再表彰 (50 年)

ナチュラルコンサルタント株式会社 3 級再表彰 (50 年)

日特建設株式会社北陸支店 4 級再表彰 (50 年)

中部地下開発株式会社 4 級再表彰 (35 年)

アキュテック株式会社 4 級再表彰 (25 年)

国土交通省北陸地方整備局新潟港湾空港技術調査事務所 4 級初回 (10 年)

正会員

長田 寛 氏 共栄興業(株)

賞状

2) 支部表彰の授与

北陸支部賞 (研究・論文部門 論文賞)

村尾 英彦 氏 株式会社 村尾地研

賞状

対象論文

Progressive failure of unsaturated fill slope caused by cumulative damage under seepage surface, International Journal of GEOMATE, Feb., 2021, Vol.20, Issue 78, pp. 1-8, ISSN: 2186-2982 (P), 2186-2990 (O), Japan

佐藤 豊 氏 株式会社 キタック

賞状

対象論文

千曲川旧河道の形成過程と土砂の堆積構造, 基盤漏水位置との関係, 土木学会論文集 B1(水工学), Vol.76, No.2, I_295-I_300, 2020

北陸支部賞 (技術部門 技術奨励賞)

山口 貴之 氏 東京コンサルタンツ株式会社

賞状

対象技術: IoT 技術の導入による点検作業の効率化

6. 令和3年度の事業計画

1. 公益出版事業〔公1〕

北陸支部創立60周年記念の出版をおこない、支部総会時に公開する。記念誌は基本的に電子版とし、無料で支部サーバーからダウンロードできるようにする。「液状化しやすさマップ新潟県版、富山県版、石川県版」と流水客土技術関連資料集DVDの拡販を引き続き行う。

2. 調査・研究事業〔公2〕

あらたに災害協定を締結した国土交通省、新潟県、石川県と地域防災力向上に関する相互協力の方法について協議し、イベントなどを企画する。新潟市において第57回地盤工学研究発表会の開催が内定したので実行委員会に協力する。例年行っている講習会、講演会、コロキウム、実務者報告会、現場見学会などオンライン形式を多用して実施する。「学生＋若手技術者（卒業・修了後3年以内）」をターゲットにした「支部研究発表会＋交流イベント」を新たに企画する。

3. 技術推進事業〔公3〕

例年に準拠し、セミナー、現場技術者のための講習会、とことん勉強会など、オンライン形式を多用して開催する。富山県との災害協定に基づき県内自治体職員に対する研修会を開催する。建設コンサルタンツ協会など関連学会協との連携を強化し、支部活動の活性化と新規会員の獲得を目指す。

4. 表彰関連事業〔公4〕

支部賞として、論文部門研究功績賞、論文部門研究奨励賞、技術部門技術賞、企画部門企画賞、功績部門功績賞の募集を行い優れた活動・業績を表彰する。

1) 総会・評議員・幹事会の開催

各地区幹事会は年度の早い時期に開催し、年度予定を確定する。コロナ禍にもよるが、殆どのイベントはオンラインとする。

2) 研究発表会・シンポジウム・講習会、現場見学会の開催

下表は例年のイベントをまとめたものである。各地区においてはイベント開催日時の平準化を目指し、企画立案する。現場見学も ZOOM を使い、ライブ動画を使って実施することを検討する。各地区担当者はイベントの日程を事前に幹事長と相談の上、決定するものとする。

	イベント名	地区名
1	特別講演会（総会時）	新潟
2	現場見学会	石川
3	とやまジオテクフォーラム	富山
4	現場技術者のための土質力学	石川
5	地盤工学講演会	新潟
6	ジオテクフォーラム	新潟
7	地盤調査法講習会	新潟
8	現場見学会	富山
9	84 回コロキウム	石川
10	ジオテクフォーラム	新潟
11	富山県職員研修	富山
12	現場見学会	石川
13	実務者報告	石川
14	実務者報告	新潟
15	85 回コロキウム	富山

6. 支部委員会について

次の 2 つの新設委員会を立ち上げる

1) 北陸支部防災会議（仮称）

国土交通省北陸地方整備局、新潟県、石川県と新たに災害協定を締結した。富山県とはすでに締結済みである。

協定は災害時の対応のみならず、地域の防災力向上のために互いに協力し合うことになっている。富山県では毎年、富山県職員に対して、研修会を行っている。

そこで、国土交通省と 3 県との災害協定締結が出そろったので、災害時と地域の防災力の向上の対応をするために、支部全体のメンバーを含めた、北陸支部防災会議を組織化する。

防災会議のメンバーはメール審議、公募で募集する。

2) 北陸支部ユースネットワーク研究発表会

設立趣旨

イベント名：北陸支部ユースネットワーク研究発表会（交流会付き）

開催時期：2021年6月と11月 いずれも半日程度

開催形態：Zoomによるオンラインミーティング（研究発表会、交流会）

集客数（概数、目標）：計70人、内訳 発表者30名、聴講者（学生20名、会員20名）

必要経費：10000円（ただし学生表彰費用として。具体的には表彰状の発行・郵送費用等）

【提案趣旨】 学生教育に携わる者として、全国大会に比べて敷居の低い支部研究発表会等を設けることは、将来を担う学生や若手技術者が研究成果を世に公表する機会、いわゆる学会デビューする機会として意味があると考えます。また学会は単に発表の場ではなく、同世代の学生・技術者の研究発表を聴講することで、知的刺激を受ける絶好の機会でもある。しかしながら、地盤工学会北陸支部では、学生あるいは卒業・修了後間もない技術者をターゲットにしたイベントは特に開催されていないようである。

さて、2020年のコロナ禍で外出・会議の開催が大きく制限される中、Zoom等を利用した電子会議システムが社会に急速に普及した。移動時間や旅費に縛られることなく、効率的な意見交換ができることから、その便利さ体験した人も多い。ポストコロナ時代でも情報交換の重要なツールとして、リアルな対面方式と併存する形での活用が期待される。

これらの社会状況や背景を踏まえ、学生と若手技術者（概ね卒業・修了後3年程度を目安とする）を対象に、研究発表と人的交流の機会を提供するイベントを提案する。

成果としては、支部活動の活性化や若返り、地域内学生の連携と学生会員の獲得、また若手の正会員の獲得を期待する。さらに一般会員も聴講者として参加可能なため、インターンシップやリクルーティングの参考になることも期待できる。

【運営体制と実現可能性】 広報、参加者募集、プログラム作成、当日運営は、大学・高専関係者が中心になって行うこと、支部所有のZoom Meetingアカウントの利用を想定しており、実施可能性は極めて高い。

【参加資格】 学生（発表・交流会に参加可能、聴講のみも可）、若手技術者（発表・交流会、必ず発表を行うこと）を中心とし、地盤工学会会員（個人会員・特別会員）は聴講のみに限定する。また若手技術者については概ね卒業・修了後3年程度までとし、卒業校・勤務先が北陸支部に関係しておればよい。

【参加費用】 参加費用は無料とする。これによって、会員向けの優待・サービスの差別化と会費徴収に伴う煩雑な事務作業の回避を両立させることが可能であると考えます。

【その他】 研究発表会、交流会での複数会場は、Zoomのブレイクアウトルーム機能を活用し、1ライセンスで運営する。（参加者数の上限はこれで決まる）。また研究発表会資料の収集・保管・閲覧については、学会本部の電子図書室に取り扱いを確認しております。（文責：小林俊一@金沢大学）

8. 令和3年度の予算

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで	3年度予算
(1) 経常収益	
④ 事業収益	640,000
公益出版事業収益(公1)	(20,000)
印刷物配布収益	20,000
調査研究・基準事業収益(公2)	(350,000)
講演会等収益	150,000
見学会等収益	100,000
研究会等収益	100,000
技術推進事業収益(公3)	(250,000)
報告会収益	100,000
講習会収益	150,000
⑤ 雑収益	50,000
受取利息	1,000
雑収入	49,000
⑥ 他会計からの繰入額	2,450,000
本部交付金	2,450,000
経常収益計	3,140,000
(2) 経常費用	
① 事業費	1,050,000
調査研究・基準事業費(公2)	(700,000)
講演会費	150,000
見学会費	100,000
研究会費	450,000
ジオテクフォーラム・セミナー	100,000
雪割り草の会	50,000
若手理論・計算力学普及委員会	50,000
出版事業推進委員会	100,000
軟弱地盤対策委員会	100,000
北陸支部防災会議	50,000
支部研究発表委員会	50,000
技術推進事業費(公3)	(250,000)
報告会費	100,000
講習会費	150,000
表彰委員会関連費(公4)	(100,000)
表彰委員会費	100,000
② 管理費	2,060,000
旅費交通費	200,000
通信費	350,000
リース料	—
消耗品費	50,000
印刷製本代費	100,000
会場使用料	50,000
広告宣伝費	10,000
図書購入費	—
支払手数料	20,000
雑費	100,000
事務局委託費	1,180,000
器具備品減価償却費	0
経常費用計	3,160,000
当期経常増減額	-20,000

9 . その他

令和3年度の役員名簿は別添する。